

彙報

二〇〇九年一月より
二〇〇九年十二月まで

研究班

東方學研究部

西陲發現中國中世寫本研究

班長 高田 時雄

一九世紀末以來、敦煌・トルファンさらに東トルキスタン各地の遺蹟から数多くの寫本が発見された。しかし、これらの寫本の研究は、資料の公開整備が格段に進んだこと、寫本研究の方法が厳密化したことなどにより、近年全く新しい段階に入ったと言える。本研究班では、漢文寫本を中心とし、歴史・宗教・言語・文學など様々な角度から検討を加え、西陲發現寫本の総合的な研究を展開する。なお昨年度の報告は『敦煌寫本研究年報』（第三號）として刊行された。

二〇〇九年一月より二月までに行われた研究発表は以下の通り。

- 一月二六日 敦煌の大藏經文化―再検討の試み Silvio VITTA
 英國收蔵的藏文注音西夏文佛經殘片試釋 池田 巧
 二月 九日 『觀無量壽經』諸本の系譜―敦煌本と日本古寫經本の親近性 落合 俊典

四月二七日

稀觀本斷簡二種 赤尾 榮慶
 敦煌吐魯番文書中供食三等次問題研究 高 啓安

五月二一日

『十方千五百佛名經』について 山口 正晃

五月二五日

古代チベットの單位 mda ー 岩尾 一史
 俄國收蔵的藏文注音西夏文佛經殘片 No.八三六三試釋 池田 巧

六月 八日

《敦煌變文集》〈下女夫詞〉的整理兼論其與「咒願文壹本」、「障車文」、「驅儺文」、「上梁文」之關涉問題 王 三慶
 書儀と詩格―變容する詩文のマニュアルとして 永田 知之
 ロシア科學アカデミー東洋寫本研究所藏「唐名例律」殘片小考 辻 正博

七月 六日

敦煌發現說苑小考 藤井 律之
 藏經音義の敦煌吐魯番本と高麗藏 高田 時雄

八月 七日

Dx 一一〇三八書儀をめぐって

て 松浦 典弘

《唐大曆元年河西節度觀察使判牒集》研究 金 澄坤

唐宋時期敦煌土貢考 余 欣

西州における私馬徵用と私群牧 中田 裕子
 衛星寫真を用いたスタイン地圖の精度分析とトルファンにおける考古調査への應用― Digital Excavation の試み 西村 陽子

漢簡語彙の研究

班長 冨谷 至

今年度は當研究班の最終年度にあたる。前年度に引き続き、居延舊簡を中心としつつ、居延新簡・敦煌漢簡中の語彙もあわせて検討し、語義を確定した。本研究班で確定させた語彙数は、二〇〇九年末の時点で、約二二〇〇項目となった。本研究班で得られた成果は、來年度より新規に開催する「漢簡語彙辭典の編纂と出版」班へと引き継ぎ、漢簡語彙辭典の公刊を最終目標とする。

二〇〇九年度の擔當者は次の通りである（排列は擔當順）。

- 米田健志、佐藤達郎、藤井律之、森谷一樹、吉村昌之、辻正博、大川俊隆、鷲尾祐子、井波陵一、太田麻衣子、田中一輝、馬場理恵子、山本宣宏、冨谷至、角谷常子、鷹取祐司

傳統中國の生活空間

班長 田中 淡

中國の傳統的な生活空間および造形、すなわち具體的には住まい、宮殿、庭園、あるいは家具配置、室内空間、日常生活と儀禮等々の諸相をとらして、その特質を探る。時代・地方を限定せず、また建築空間に限らず、廣義的な意味で日常あるいは儀禮の生活空間を對象として、中國學の關連分野および東アジア、周邊地域の専門家の参加を得て、多様な研究主題をとりあげてゆく。研究發表と併行して會讀するテキストとして、明・方以智『通雅』宮室をとりあげる。この期間に行われた研究發表・見學會・會讀と擔當者は以下の通り。

二〇〇九年

一月二七日

建築の軒を裝飾する絃樂器の系譜―淵源を中國にさぐる―

二月一〇日

『通雅』卷三八 棖・闌
中安 眞理
塚本明日香

二月二四日

『通雅』卷三八 門限、菴廬
塚本明日香

三月二四日

飛鳥の須彌山石と東大寺大佛蓮瓣の須彌山圖 外村 中

四月二八日

『大唐開元禮』の宮殿儀式とその空間
福田 美穂

五月一二日

『通雅』卷三八 冬突、倉琅根
塚本明日香

五月二六日

『通雅』卷三八 塾、重轍
塚本明日香

六月 九日

『通雅』卷三八 重轍、光門、蒿宮
塚本明日香

六月 二三日

『通雅』卷三八 屈柱跌瓦、樸角、覆海
塚本明日香

七月 一四日

『通雅』卷三八 覆海、闕
塚本明日香

一〇月 一三日

見學會 藥師寺舊東院堂跡、興福寺南大門跡

一〇月 二七日

『金瓶梅詞話』中の牀榻類について
高井たかね

十一月 一〇日

『通雅』卷三八 竈額、石承
塚本明日香

十一月 二四日

『通雅』卷三八 甕械
塚本明日香

十二月 八日

『通雅』卷三八 屋頭、廁
高井たかね

聖壘
塚本明日香

三教交渉の研究 (二)

本研究班は、「三教交渉の研究」研究班の後を承け、引き続き中國中世における儒佛道三教間のかかりをさまざまな角度から研究することを目的に、二〇〇五年度から五年間の豫定で組織された。昨年は、前半は陳垣『道家金石略』所收の隋唐道教關係碑文のうち以下の三碑の解讀を行ひ、後半は研究報告書の出版に向けて下記の研究發表を行った。

(解讀)

九天使者廟碑

玉真公主受道靈壇祥應記

修青城山諸觀功德記

(研究發表)

九月 一六日

吳筠の思想―「玄綱論」を中心に―
麥谷 邦夫

九月 三〇日

六朝隋唐時代の戒壇の形狀―道宣『關中創立戒壇圖經』を中心に―
船山 徹

九月 一四日

崔玄亮の道教生活 深澤 一幸
唐代禪宗の見性論と『三論元旨』
齋藤 智寛

一〇月 一四日

武則天「昇仙太子碑」をめぐる
古勝 隆一
玄師と經師―道教における新しい師の觀念とその展開―
金 志玪

一〇月 二八日

全眞教の革新性について―性説の取り込みとその超克―
松下 道信

十一月 二日

朱子の『老子』解 孫 路易
太宗『逍遙詠』について
山田 俊

伊勢神道撰述書『大元神一祕書』と『老子述義』
藤井 淳

十二月 二五日

道教における「五辛」と食忌について
龜田勝見

張宇初における「心」について
『峴泉集』を中心に――

焜 忍
二月 九日 「九天」考 垣内 智之

『昌道眞言』における内丹の儒
教的理解 秋岡 英行

北朝石刻資料の研究

班長 井波 陵一

前年に引き続き、人文科學研究所所蔵の北朝石
刻資料（一部南朝も含む）に關して、文字の對校
および訓讀・語注の作成をおこなった。本年取り
上げた資料は、「刁遵墓誌」「賈思伯碑」「高植碑」
「張猛龍碑」「蕭憺碑」である。

長江流域社會の歴史景観

班長 森 時彦

本研究班は、中國の中樞部ともいべき長江流
域社會が如何に形成され、如何に發展して近代世
界と向き合うようになり、そして中國社會に如何
なる影響を及ぼしたのかといった様々な問題を、
人文學的、とりわけ歴史學的なベース、ベクティ
ブから多角的に解明することを目指してスタート
した。

二年目にあたる二〇〇九年には以下の報告が
行われた。特に若手参加者の報告をめぐって活發
な議論が交わされたのが目立った。

二月 六日 梁啓超の政治學―明治日本の
國家學とブルンチュリ受容を
中心に 川尻 文彦

二月二〇日 二〇世紀における日中地理學
交流史序説―忘れられた留日
地理學者・王謨の生涯

三月 六日 嘉道年間江南的漕弊―州縣財
政的視角 周 健

五月 一日 中興鑛局始末―土窯から洋式
窯へ移行する試み 袁 廣泉

五月二二日 『大同書』と『富國策』康有
爲、Phalange、岸田吟香
濱田 直也

六月 五日 電影與二〇世紀中國の民族主
義―以一九二〇年代美國「辱
華」電影的中國反應爲中心
汪 朝光

六月一九日 成都・武漢・上海―都市圖の
近代的展開 小島 泰雄

七月 三日 温州經濟發展初期のイデオロ
ギー問題 鄭 樂靜

一〇月 二日 垂簾聽政下の清朝中央におけ
る政策決定について 大坪 慶之

一〇月一六日 民國初期の地方教育行政と教
育會―湖南省を事例として 宮原 佳昭

一一月一三日 北京政府時期浙江における審
判廳設置狀況 田邊 章秀

一一月二七日 孫文『實業計畫』の同時代的位
相 武上眞理子

一二月二一日 民國初期廣東における地方自
治政策と鄉村エリート 宮内 肇

東アジア古典文獻コーパスの研究

班長 安岡 孝一

本年は、漢文コーパスの制作手順を議論すると
同時に、その文法規則および品詞分類に關して意
見交換をおこなった。また、漢文コーパスのエン
ジンとして Mecab を用いることを決定し、その
特性について、かなり詳細に検討した。なお、本
研究班では、参加者全員が文獻や書籍を見ながら
論じ合うというスタイルを取っているため、特定
の發表者等は記さないことにする。

一月二〇日 『全譯漢字解』の品詞分類
『操觚字訣』

二月 三日 「日本における訓點資料の展
開」
「漢文訓讀體と敬語」

二月一七日 「國語施策と訓點語學」
四月 三日 「訓讀」問題と古文辭學」

四月一七日 宮下の漢文ダイジェスト
「表現文法の代用品としての漢
文訓讀」

五月 一日 「日本語漢文の訓讀とその將
來」
「漢文訓讀の現象學」

五月一五日 古代漢語句構造文法（一）
「Mecabを用いた古典中國語
の形態素解析の試み」

六月 五日 「専門用語の内部構造解析」
古代漢語句構造文法（二）

六月一九日 對句で構造を理解する

詩中の對句の文法構造

『全唐詩』

第三回ワークショップ・文字

―新常用漢字表を問う Part

2

七月 三日 『全唐詩』の律詩における對句頻度

七月 一七日 『全唐詩』の律詩における對句頻度 ver. 2

八月 七日 とりあえず Mecab を使ってみよう (一)

八月 二一日 とりあえず Mecab を使ってみよう (二)

九月 四日 漢文コーパスの共有

九月 一八日 Mecab を用いた漢文形態素解析器のための品詞の問題

一〇月 二日 漢文コーパスのプロトタイプング

一〇月 一六日 分類語彙表―増補改訂版データベース

一二月 六日 mecab-kanbun TIPS

一二月 四日 『北大語料庫加工規範』(一) Git 入門

一二月 一八日 『北大語料庫加工規範』(二) 版)

繪文字が開いてしまった『パンドラの箱』

銀雀山漢墓竹書殘簡の整理―中國古代の基礎史料―

班長 淺原 達郎

本題の銀雀山漢墓竹書殘簡をとりあえず放置し、目下のところもっとも重要な課題だと考えられる上海博物館藏楚簡に、全力を注いでいる。

まず、曹沫之陳を讀み終え(一月二六日～二三日)、さらに中弓に關する陳劍氏の論文が公表されたので、これを讀んだ(一月三〇日～二月二〇日)。引き続き、競建内之・鮑叔牙與隰朋之諫(四月一七日～五月二二日)、季庚子問於孔子(五月二九日～六月二六日)、姑成家父(七月三日～一七日)、君子爲禮(九月二五日～一〇月九日)、弟子問(一〇月九日～二三日)、三德(一〇月三〇日～十一月一八日)と讀み進んできた。

この間、『曰古』第一三號(四月一七日)に郭店楚簡の六德、尊德義の札記および上海博物館藏楚簡の曹沫之陳の配列修正案を、『曰古』第一四號(九月二五日)に郭店楚簡の語叢三、語叢一、語叢二の札記を、それぞれ掲載した。讀郭店楚墓竹簡札記はやっと完結である。

陰陽五行のサイエンス 班長 武田 時昌
陰陽五行説は、物類や自然現象の法則性や相互關係を説明する原理として大いに用いられた學説であり、中國の諸分野において独自の理論構造を生み出すパラダイム的な役割を果たした。これまでの研究においては、陰陽五行説の成立過程や配當説、それを援用した漢代の政治思想等に詳しい考察が試みられてきた。しかしながら、三國時代以降の史的展開や理論構造の特質については、十

分な検討がなされているわけではないように思われる。そこで、自然學に限らず思想、宗教から文學、諸技藝に至る多彩な分野において、天人感應、物類相感等を含めた陰陽五行の説明原理が、實際にどのように活用されているのかを分析し、包括的、複眼的な見地からその構造と特色あるいは限界性を考究したいと考えている。

二〇〇九年は、引き続き『五行大義』卷三を會讀し、班員による研究發表を行った。ゲストスピーカーを招いた講演會として、六月には天文曆算特別講演會、一二月には醫學史特別講演會を開催した。また、曆注資料や『武經總要後集』等の讀書會も随時行った。

研究發表、特別講演會の日程、演題、發表者は、以下の通りである。

五月 九日 めくら曆を讀み解く 宮島 一彦

『地理新書』の五音法

宮崎 順子

六月 一三日 (天文曆算特別講演會)

新城新藏の宇宙進化論の歴史的研究 株本 訓久 (岡山天文学博物館研究員)

新城新藏と中國天文学史研究 小澤 賢二(安徽師範大學客座教授)

七月 一一日 日本の曆文化、諸歲神の記載を中心として Gerhard Leiss

八木の火の禁忌 関 淑珍

一〇月二四日 古本五嶽真形圖への道―横山潤・大江文坡・平田篤胤―
坂出 祥伸

二月一九日 (醫學史特別講演會)

《傷寒論》條文標注法的討論

王 軍 (長春中醫藥大學副教授)

敦煌藏經洞本《輔行訣》系編寫本 趙 懷舟 (山西省中醫藥

《輔行訣》大小勾陳膽蛇四方考 劉 忠文

元代の法制 (二〇〇四、四～二〇〇九、三) (長春中醫藥大學副教授)

二〇〇四年に發足した當班は二〇〇九年三月に研究期間を満了した。『元典章』禮部の計六卷および『新集至治條例』禮部の會讀を二年間で終え、その後、中國近世社會の宗教、文化、法制、外交などの分野の研究報告にまじえて、『異國出契』にふくまれる元寇關係の外交文書、『元典章』工部の三卷、『元典章』附鈔「都省通例」などの會讀をおこなった。成果として、班員による研究論文を『東方學報』に順次掲載しつつあるほか、『元典章』禮部の「禮制一」(朝賀 進表 迎送)、「禮制二」(服色 印章 牌面 誥命)、「禮制三」(婚禮 喪禮 葬禮 祭祀)の校訂本文ならびに譯注を同誌上に掲載した。『元典章』には準據すべき前例としての例案が多くふくまれている。各條に植松正氏

報 暈

の考案された文書構造を示す圖を附すなどの工夫をし、複数の官廳間における公文往來によって例案が形成される過程についての分析結果を示した。禮部の「學校一」、「學校二」、「釋道」、「新集」禮部、工部の「造作一」、「造作二」、「役使」の校訂本文と譯注を今後公表する豫定である。また、會讀における本文校定の成果を電子テキストに反映させ、精度の高い點校本をオンラインで検索・閲覽可能とした。

二〇〇九年一月～三月の活動を下に示す。

一月二七日 「元朝の文書行政におけるパスバ字使用規定について」 中島 樂章

會讀『新集至治條例』工部、造作・工役 岩井 茂樹

二月一〇日 會讀『元典章』附鈔「都省通例」 植松 正

二月二四日 會讀『元典章』附鈔「都省通例」 (續) 植松 正

三月一〇日 會讀『元典章』十二、吏部六、吏制、儒吏 岩井 茂樹

三月二四日 「契丹・宋間の澶淵體制における外交儀禮と外交文書」 古松 崇

東アジア地域間交渉の文書と言語 (二〇〇九、四～二〇一〇、三) 班長 岩井 茂樹

「元代の法制」共同研究班の成果を立脚点として新たな共同研究の課題と方法を模索するため、試行的な共同研究として本研究班を發足させ

た。モンゴル支配のもとでは、言語の翻譯が行政の制度に組みこまれたほか、独自の傳統をもつ集團の制度や文化が接觸し、融合や變形などが發生した。『元典章』禮部、工部に含まれる官牘文書の研究をつうじ、これらの過程の重要性を再確認するとともに、東アジアのエスニック集團の交錯と共存の過程を理解するための鍵がこうした過程にあること認識することができた。文字や言葉の交換にとどまらず、制度や文化の翻譯とでも言うべき一般的な問題にまで視野を擴大することも可能であろう。こうした觀點にたつて、行政や外交の場において用いられた文章の書き手であった書吏の制度とその實態について理解を深めることを目的として『元典章』吏部に含まれる儒吏、職官吏員、令史、書吏、典史、譯史通事、宣使奏差、司吏、典史、獄典、庫子の條を會讀するほか、研究報告と討議を交えて研究会を開催した。

二〇〇九年四月～十二月の活動を下に示す。

四月二日 會讀『元典章』十二、吏部六、吏制、儒吏 岩井 茂樹

五月一九日 會讀『元典章』十二、吏部六、吏制、儒吏 (續) 岩井 茂樹

「元明清官牘文における引用終端語について」 岩井 茂樹

六月 二日 會讀『元典章』十二、吏部六、吏制、職官吏員・令史 矢木 毅

六月一六日 會讀『元典章』十二、吏部六、

史制、書史 山崎 岳

七月 七日 會讀『元典章』十二、吏部六、
吏制、書史(續) 岩井 茂樹

七月二一日 「崇禎年間の功德碑からみた普
陀山への寄進」 石野 一晴

九月一五日 會讀『元典章』十一、吏部六、
吏制、宣使奏差・司吏 植松 正

九月二九日 會讀『元典章』十二、吏部六、
吏制、司吏(續) 市丸 智子

一〇月二〇日 「瀋陽塔灣遼代舍利塔とその周
邊」 毛利 英介

一二月 八日 會讀『元典章』十二、吏部六、
吏制、司吏(續) 市丸 智子

一二月二二日 會讀『元典章』十二、吏部六、
吏制、典吏・譯史通事 古松 崇志

唐代文學の研究

昨年度に引き続き、正倉院所蔵、光明皇后親筆
の唐代書儀『杜家立成雜書要略』の講讀を行い、
譯注を作成、本年が最終年度であり、全書の講讀
を終え、譯注原稿を完成させた。また南京大學域
外漢籍研究所の金程宇氏、および上海圖書館歴史
文獻中心の陳先行氏による講演會を開催した。開
催日と擔當者は以下のとおりである。

四月二五日 | 金文京 (二二五信)
五月一六日 | 道坂昭廣 (二二六・二二七信)
六月二〇日 | 講演會(金程宇) : 「近十年唐宋
文獻研究的新史料與新問題」

七月二五日 | 愛申弘志 (二二八・二二九信)

一〇月二四日 | 釜谷武志 (三三四信)・乾源俊
(三三五信)

一二月二八日 | 淺見洋一 (三三二・三三三信)
一二月一九日 | 大野修作 (三三〇信)・Witem.C
(三三一信)

二二年一月三〇日 | 齋藤茂 (三三六信)・講演會
(陳先行) : 「明清時代の稿本・
抄本・校本の鑑定について」

『杜家立成雜書要略』の譯注は原稿整理のうえ、
刊行する豫定である。

眞諦三藏とその時代 班長 船山 徹

本年度は一月より六月初旬にかけて班長船山
がハーヴァード大學神學部にて客員教授として
出張したため、例外的措置として、その間の研究
班は、班員諸氏が研究報告書作成に向けて準備作
業を進める期間とした。

六月以降には以下の活動を行い、最終報告書作
成にむけての各自の發表と佚文資料原稿作成の
再検討を始めた。また昨年同様、本年も各回終了
後に、本研究班メンバーリングリストを通じて、班員
諸氏による活発な意見交換と情報提供がなされ
たことをも補足しておきたい。

六月二日 「引用と原文・眞諦佚文の信頼
性をめぐって」 船山 徹

六月二六日 「眞諦『九識章』『仁王般若經
疏』『十七地論』」 大竹 晉

七月一〇日 「中國佛教史書にみえる眞諦」
齋藤 智寛

九月一八日 「眞諦佚文補遺(由論疏、中邊
分別論疏、如實論疏、大空論
疏)」 大竹 晉・池田 將則

一〇月 二日 「日本古文書・諸目錄に残る眞
諦關係著作の情報について」
藤井 淳

同日 「歴代三寶紀州」眞諦傳譯注稿
の検討」 船山 徹

一〇月一六日 「續高僧傳」眞諦傳の譯注稿の
検討其一」 船山 徹

一二月一三日 「續高僧傳」眞諦傳の譯注稿の
検討其二」 船山 徹

一二月三三日 マイケル・ラディッチ博士
(ヴィクトリア大學ウエリントン
校講師、本研究班海外特別班
員)による特別講演「阿闍世王
の指の謎―婆羅留枝」と「折
指」という名稱をめぐって」

中國古鏡の研究 班長 岡村 秀典

漢鏡・三國兩晉鏡・紀年鏡に分けて銘文の集
成と注釋の作成を實施し、前漢鏡銘にかんする論
文と集釋を『東方學報』京都第八四冊に發表し
た。研究會の會讀と研究發表は以下のとおり。

一月一三日 前漢鏡銘の會讀 岡村

一月二〇日 紀年鏡銘の會讀 光武 英樹

一月二七日 前漢鏡銘の會讀 岡村

二月 三日 漢鏡七期の銘文について
森下 章司

二月一〇日 前漢鏡銘の會讀 岡村

二月一〇日 前漢鏡銘の會讀 岡村

二月一七日	前漢鏡銘の研究	岡村
四月二一日	紀年鏡銘の會讀	光武
四月二八日	三國兩晉鏡銘の會讀	森下
五月二二日	後漢鏡銘の會讀	岡村
五月一九日	紀年鏡銘の會讀	光武
五月二六日	青銅鏡の螢光X線分析	廣川 守
六月二日	三國兩晉鏡銘の會讀	森下
六月九日	後漢鏡銘の會讀	岡村
六月一六日	紀年鏡銘の會讀	光武
六月二三日	三國兩晉鏡銘の會讀	森下
六月三〇日	後漢鏡銘の會讀	岡村
七月七日	紀年鏡銘の會讀	光武
七月一四日	三國兩晉鏡銘の會讀	森下
七月二一日	後漢鏡銘の會讀	岡村
九月二八日	紀年鏡銘の會讀	光武
一〇月六日	二世紀の紀年鏡	原田 三壽
一〇月一三日	後漢鏡銘の會讀	岡村
一〇月二〇日	三國兩晉鏡銘の會讀	光武
一〇月二七日	紀年鏡銘の會讀	光武
十一月一〇日	後漢鏡銘の會讀	岡村
十一月一七日	三國兩晉鏡銘の會讀	森下
十一月二四日	紀年鏡銘の會讀	光武
十二月一日	後漢鏡銘の會讀	岡村
十二月八日	三國兩晉鏡銘の會讀	森下
十二月一五日	紀年鏡銘の會讀	光武
十二月二二日	朝陽市北塔をめぐって	劉 斌

中國社會主義文化の研究	班長 石川 禎浩
本研究班は、二〇世紀中國の社會主義文化の諸相を主に歴史的視點から研究することを目指している。四年目の今年も、昨年を引き続き、京都大學現代中國研究據點（人文研附屬現代中國研究センター）の研究グループ一の事業という性格を合わせ持った活動を行い、活發な議論を繰り廣げることができた。研究班最終年度にあたる今年は、隔週の研究会を開催すると並行して、報告論文集のとりまとめを行い、計一七篇の論文を收めた論文集が二〇一〇年度はじめに刊行される見込みである。二〇〇九年の各回の報告は以下の通りである。	
一月三〇日 「周作人の「鬼・怪」論―柳田國男と比較して」 王 蘭	
二月一三日 「重慶における國防映畫の制作について―『東亞之光』を中心―」 韓 燕麗	
二月二七日 「ヤルタ「密約」をめぐる重慶中ソ交渉」 吉田 豐子	
四月二四日 「日中戦争期における日英關係と「蒙疆政權」」 田中 剛	
五月八日 「中國演劇、二〇世紀末の轉換」 瀬戸 宏	
五月一五日 「中國革命と陽明學―荻生茂博「東アジアの（陽明學）への中國研究者よりする回答の試み」	
緒形 康	
六月二二日 「黨内民主は黨の生命である」	

―中國共產黨の近年の試みをめぐって―	江田 憲治
六月二六日 「政治・市場・藝術―文革時期的中國電影」	汪 朝光
七月一〇日 「周作人と『遠野物語』」	王 蘭
九月二五日 「中興炭礦の成長と轉落の軌跡―北伐戦争中における中興沒收事件を中心に」	袁 廣泉
一〇月九日 「小川琢治の中國研究とその中國への影響」	柴田 陽一
一〇月二三日 「日中戦争期における都市文藝人と邊疆―抗戰映畫『塞上風雲』をめぐる―」	島田 美和
十一月六日 「一九二〇年代中國青年黨「國家主義」イデオロギー初探」	小野寺史郎
十一月二〇日 「文革期の文學出版狀況」	瀬邊 啓子
十二月四日 「陳炯明の國家建設論―「中國統一芻議」の再檢討」	金 世昊
十二月一八日 「中國「新左派」の民主化論―王紹光を中心に」	瀧田 豪
南アジア北邊地域における文化交流の諸相	班長 稻葉 穰
本研究班は、南アジアが中央アジア、西アジアと接觸する境界領域周邊で、古代から近代にかけて生じた接觸・交流・衝突・融合の様々な事例	

を可能な限り網羅的に検討し、前近代における文化交流をどのように捉えうるかを考察することを目的として、二〇〇九年四月に新たに組織された。本年は以下に記すようなタイトルで研究報告と討論を行った。

- 四月二四日 イントロダクション・研究班の活動方針の検討
- 五月二二日 「前近代のカールスル・東部アフガニスタンにおける大都市の變遷」 稲葉 穂
- 六月 五日 「パミヤーン遺跡の最新の調査と研究動向」 岩井 俊平
- 六月一九日 「ゴール朝とホラズムシャーフ」 井谷 鋼造
- 七月一七日 「ヤカウラング周辺の遺跡と佛教傳播の西への道」 井上 陽
- 一月 六日 「チャガタイ・ハーン國とインド」 川本 正知
- 一月二〇日 「クシャーン朝に關する近年の研究」 宮本 亮一
- 二月 四日 「調査報告」トルコ・イラン・トルクメニスタンにおける石窟の調査」 エルダル・キユチュクヤルチン / 井上 陽
- 二月一八日 「北邊地域とインドの接點」三十一六世紀のムルターン」 二宮 文子

中國繪畫の總的研究 (二〇〇五、四、二〇〇九、三)

- 二月 二日 ワークショップ「遼代の佛教美術」
- 「北京天寧寺塔とその塑像」 向井 佑介
- 「慶州白塔の創建をめぐって」 契丹王族の佛教信仰」 古松 崇志
- 「雲岡第三窟三尊大像と遼代佛教彫刻」 曾布川 寛
- 二月一六日 「唐代の摩竭(マカラ)文について―怪魚の圖像の系譜と繪畫・工藝史における意義―」 竹浪 遠

人文學研究部

複數文化接觸領域の人文學

班長 田中 雅一
 今年、本研究班の最終年度に當たる。前期は参加者の個別發表を中心に活動した。また、一月からは主として成果論文集を念頭に論文ドラフトについて検討した。この研究班は人文學國際研究センターの據點プロジェクトでもある。また、研究會の成果を公表する雑誌『コンタクト・ゾーン』二號を刊行した。

- 二〇〇九年
- 一月二六日 「植民地主義と人類學 戦後編」ミシガン大學日本研究所」 報告・中生 勝美

二月 二日 「植民地期インド・オリッサにおける社會變容―イギリスとインドの會いは地域社會をどう變えたか」

報告・田邊 明生

二月一六日 「アフリカ系アメリカ人の社會宗教運動にみる接觸領域―ヨルバランド巡禮がもたらすホスト・ゲスト文化の變容」

報告・小池 郁子

四月二〇日 「敵國兵器の展示とその變遷―オーストラリアにおける日本軍特殊潜航艇展示」

報告・田村 恵子

五月一八日 「これは私達の地獄ではない―立山信仰・立山博物館、アイデンティティ・衝突。立山町芦峯寺(あしくらじ)をコンタクト・ゾーンとして考えられるか?」

報告・アンドレア デ・アントーニ

六月 一日 「聖地グラストンベリーを構成するスピリチュアリティ實踐の諸相とその相互關係」

報告・河西瑛里子

六月一五日 「ポストコロニアリズムという言説―ホミ・バーバ その戦略と臨界點」報告・磯前 順一

七月 六日 「ジェンダー・クロッシング」

報告：高垣 雅緒

一〇月 五日 「Colonialism, modernity, and the transformations of religion' as a category」

報告：Fitzgerald, Timothy

一〇月 一日 「旅する「傳統」―コンタクト・ゾーンにおける／としての理論」

報告：三原 芳秋

一二月 六日 「帝國日本と佛教アジア主義―戦前期における日蓮宗僧侶・高鍋日統の内蒙古布教の事例」

報告：大谷 榮一

一二月 三〇日 「妊娠・出産の時間性―モロッコ農村部における時間のサイクル・展開・不確実性」

報告：井家 晴子

一二月 七日 「南方熊楠の佛教―成熟の季節の前に」

原稿発表：奥山 直司

「音楽をつくる―接觸領域の視點から現代的チベットの音楽の制作現場を見る」

原稿発表：山本 達也

一二月 二日 「複數文化接觸領域としてのオリシヤ崇拜運動―アフリカ系アメリカ人の社會運動とキューバのアフリカ系宗教との境界をめぐる」

原稿発表：小池 郁子

「文化接觸を意味づけなおす―ラスタファリアンという「生き方」について」

原稿発表：神本 秀爾

移民の近代史―東アジアにおける人の移動―

班長 水野 直樹

一月 三〇日 「開港期在韓中國人労働者問題―廣梁灣鹽田工事の苦力を中心に―」

(報告) 李 正熙

「韓國の歴史學における開港と華僑―二〇〇八年二月の仁川大學での國際會議「開港都市論」ワークショップに参加して」

(報告) 籠谷 直人

蘭信三編著『日本帝國をめぐる人口移動の國際社會學』(不二出版、二〇〇八年六月)

三月 一四日

(書評) 安岡 健一

「近代遼寧省地域米作農業の展開と朝鮮人移民社會の形成特性」

(報告) 金 穎 (ゲストスピーカー・遼寧大學)

四月 二日 「一九八〇年前後における朝鮮華僑の歸國と歸國後の事情について―延吉・和龍・龍井・盤石歸國華僑へのフィールド調査―」

(報告) 宋 伍強

「共同研究のまとめに向けて」(相談會)

五月 九日 「滿洲國」建國初期における在滿朝鮮人の地位の變化」

(報告) 金 永哲

「一九六〇年代韓國映畫における在外「同胞」の役割」

(報告) 梁 仁實

六月 一三日 「萬寶山事件と朝鮮排華事件との關連性に關する考察」

(報告) 李 正熙

「岐阜縣における引揚者援護の展開―被占領期を中心に―」

(報告) 猪股 祐介

七月 二日 「近代日本の移殖民關係法制に關する基礎的調査・獎勵と統制」

(報告) 李 昇燁

「戦時末期内地農村における朝鮮人農民―京都府寺田村を事例に―」

(報告) 安岡 健一

九月 二日 「在滿朝鮮人生活史に關する文獻―「植民地時期在滿朝鮮人の生と記憶」(全四卷、韓國、ソニン圖書出版、二〇〇九年)を中心に―」

(紹介) 水野 直樹

「一九二七年の在滿朝鮮人「迫害」事件と朝鮮華僑排斥事件に對する朝鮮人社會の反應」

一〇月一〇日 (報告) 松田 利彦
「朝鮮戦争以降における朝鮮華僑の變容について—朝鮮華僑の國籍問題を中心に—」

(報告) 宋 伍強
「帝國の櫻—朝鮮へのソメイヨシノの植樹—」

(報告) 高木 博志
「洛北松ヶ崎からみる戦前京都の朝鮮人労働者」

一二月二日 (報告) 小野容照
「一九二〇〜三〇年代の青島と居留民」 (報告) 長澤 一恵
「朴錫胤の生涯—トランスナショナルな親日派朝鮮人エリート—」 (報告) 水野 直樹

(報告) 高野 昭雄
「戦前期在日朝鮮人メディアの形成と變容—朝鮮人労働運動との関連性に着目して—」

二〇月二日 (報告) 高木 博志
「洛北松ヶ崎からみる戦前京都の朝鮮人労働者」

虚構と擬制—総合的フィクション研究の試み—
班長 大浦 康介

最終年度にあたる今年、前期を精神分析、映画研究、經濟學、日本文學等の分野の研究發表に當て、後期は研究成果報告書の刊行に向けた原稿検討會をおこなった。

一月一九日 人格發達の心理學的理解から見たフィクションの成立
大山 泰宏

二月二日 現實と虚構 立木 康介
二月二六日 (雑多)で(舊い)物語映畫にアプローチするために 石田 美紀

三月二日 經濟政策と「かのように」(How) 石岡 克俊

三月二六日 近代小説の形式と虚構—谷崎潤一郎『春琴抄』を読む 中村ともえ

四月二〇日 フィクション論の問題圈 大浦 康介

五月二一日 祭りというフィクションと祭りを超えるフィクション 川村 清志

六月二五日 かたり繼がれるカティリーナ—一九世紀「カティリーナ」のをめぐるフィクション性 鷺田 睦朗

六月二七日 誰が星の王子さまを殺したのか?—ハラスメント理論の射程— 安富 歩

七月六日 キャラクターとモデルの間—コス寫真考— 守岡 知彦

七月二三日 ナラティヴからドラマへ—再考、明治の歴史畫 高階繪里加

一〇月五日 序—フィクション論の問題圈 大浦 康介

一〇月一九日 精神分析におけるいかなる可能なフィクション論にも先立 大浦 康介

一二月二日 つ問について 立木 康介
遊び時間の終わり—遊びのなかの虚構、虚構のなかの遊び 近藤 秀樹

一二月一六日 歴史研究者が戯曲を読む—歴史叙述と想像力 小關 隆

一二月七日 善意の盜賊は存在しうるか—グルジアにおける義賊の虚構と擬制 伊藤 順二

人種の表象と表現をめぐる學際的研究 (二〇〇三、四、二〇〇九、三)

世界的視野から見る日本の人種・民族表象 (二〇〇九、四、二〇一〇、三) 班長 竹澤 泰子
本年は、これまでの共同研究の成果を發表するとともに、四月から「世界的視野からみる日本の人種民族表象」研究會を發足させた。主たる成果として、論文集『人種の表象と社會的リアリティ』(岩波書店、二〇〇九年五月)(三二八p.)、および二〇〇八年二月に開催した國際シンポジウムの成果報告書『變化する人種イメージ—表象から考える』(京都大學國際交流推進機構、二〇〇九年三月)(一八四p.)を刊行した。

新研究會では、これまでの議論で構築してきた理論的枠組みに沿って、グローバルな観点から日本社會における人種・民族表象の考察を始めた。

一月九日(金)「序論 合評會」—貴堂嘉之論文 合評會— 竹澤 泰子

三月七日(土)「高校教科書日本史Aにみるマイノリティの表象」

黒川みどり、高橋 哲

四月二五日(土)「シンポジウム反省會」

「新しい研究會の立ち上げにあたって」 竹澤 泰子

コメント：松田 素一、J・ラッセル、齊藤 綾子

四月二六日(日)「アングラにおけるナンショナルアイデンティティ構築と人種」 寺尾 智史

六月二〇日(土)「Representing and Regulating Chinese Americans During WWII」 Anna Pegler-Gordon

「How to Study Ethnicity in Immigrant Societies」 Andreas Winmer

九月七日(月)「Neither hard-boiled nor soft-scrambled: How not to say I am an Okinawan」 沖繩人をリアルなものとする表象の仕組み 前高西一馬

「創られた〈人種〉—近代社會のなかの部落差別—」 黒川みどり

一〇月三一日(土)『人種の表象とリアリティ』合評會

評者：關口 寛

瀬戸口明久、南川 文里

十一月一日(日)「アイヌの問題の現状と歴史的表現をめぐって 佐々木利和

近代古都研究

二〇〇九年度で研究班は四年目となった。奈良・京都などの「古都」と金澤・仙台などの「城下町」の近代の歴史性に焦点をあて、多様な研究が報告された。

また前年度までの金澤・岡山に続き、二條城や「巨大城下町」の大坂のほか、仙台のフィールドワークを行った。「近代歴史都市論」として共同研究の方向性がみえてきた。

二〇〇九年 一月二四日 大阪城内外近世・近代遺跡見學(眞田抜け穴・大阪靖國軍人墓地・鎌八幡・大阪城) 案内：岩城 卓一、北川 央

三月一四日 「中世非人宿と近世夙村」 報告：吉田榮治郎

「明治期京都の歴史畫—明治二〇年代を中心に—」 高階繪里加

四月一八日 丸山 宏・伊從 勉・高木 博志編『近代京都研究』(思文閣出版、二〇〇八年)書評會 評者：高久嶺之介・中嶋 節子

五月一六日 「近代古都研究班の中間總括／近代日本の文化財と陵墓—政

治や社會との関わりにおいて—」 報告：高木 博志

「近代日本における都市制度の創設—郡區町村編制法下の「區」—」 小林 文廣

六月二〇日 「嘉永・安政期の〈大變〉—都西町奉行淺野長祚(梅堂)—幕末京都の政治社會と勤王・海防・民政のネットワーク」 報告：鈴木 榮樹

「空閒の「觀光」化と地方都市の近代(序)—造園という職能から—」 井原 縁

七月一八・一九日 仙台巡見(仙台市歴史民俗資料館・舊陸軍墓地・仙台城跡・瑞鳳殿) 案内：佐藤 雅也

七月二五日 安樂寺かばちや供養見學・法然院掃苔 案内：廣瀬千紗子・黒岩 康博

九月二六日 二條城見學(本丸庭園・西南隅櫓・二の丸御殿台所・御清所) 案内：河原 伸治・中嶋 節子

一〇月一七日 「明治期の天皇制と民俗の變容」 報告：市川 秀之 「植民地期ソウルの都市計畫—一九三〇年代を中心に—」

石田潤一郎

一月二四日 「明治前期の「門跡」と京都
―永世祿下賜と門跡號復舊を
めぐって―」

報告・青谷 美羽

「一八八一年イギリス皇孫の來
京」

二月一九日 「大阪城天守閣復興にみる戦前
大阪市の都市經營と歴史認識

―日本近現代都市史研究の視
點から―」

報告・能川 泰治

「軍都」と都市基盤整備 ―熊
本市の事例―」

三澤 純

第一次世界大戦の総合的研究に向けて

班長 山室 信一・岡田 暁生

研究會發足三年目にあたる本年度は、参加者による個別發表に加え、一般教養科目としてリレー講義も行った。本年度の研究においては、とりわけ日本と第一次世界大戦の關係をめぐる發表を多く得ることが出来た。なおこの三年間の成果の一部として、來年度第一次世界大戦についての六冊ブックレットを出版する豫定である。

二〇〇九年

一月二六日 「第一次世界大戦前後の朝鮮…
研究史と課題」

李 昇燁

二月二三日 「一九一〇―二〇年代、日本の
史蹟・名勝」

高木 博志

四月二一日 「總力戦からサイバネティック
スヘ」

安富 歩

四月二七日 「絶対平和主義から宥和政策
ヘークリフォード・アレンの
軌跡」

小關 隆

五月 九日 「ドイツ社會と戦争障害者―第
一次世界大戦の傷跡」

北村 陽子

五月二五日 「第一次大戦前後の中國…研究
史と課題」

小野寺史郎

六月二三日 「第一次世界大戦と映畫」

伊藤 洋司

六月二三日 「G・E・ムアとブルームズベ
リー・グループ」

小田川大典

七月二一日 「古典的帝國主義論の再検討…
ホブスンからレーニンまで」

王寺 賢太

九月二八日 民力涵養運動と「戦後」社會

黒岩 康博

一〇月二二日 ある音楽批評家が第一次大戦
の戦場で考えたこと―

岡田 暁生

一〇月二六日 井上清、渡邊徹編『米騒動の研
究』(全五巻、有斐閣)を讀む

籠谷 直人

一一月二四日 ある編集者の肖像―ジャック
・リヴィエールと第一次世
界大戦

小黒 昌文

一一月二三日 戦争・市場・國家…第一次世
界大戦のイギリスと國債

坂本優一郎

一二月二日 「八月の砲聲」と在歐日本人―
ドイツを中心として

奈良岡聰智

古典のなかのアジア史

班長 籠谷 直人

各月の第二土曜日はテキストの會讀にあてた。

四月二五日(土)「一年のまとめと展望」

籠谷 直人

「クリス・ベイリー論につい
て」

神田ちやん

参考文献:

C. A. Bayly, Rulers, towns-
men and bazars: North
Indian society in the age of
British expansion 1770-1870
(Cambridge: CUP, 1983).

C. A. Bayly, Indian society
and the making of the British
Empire, Cambridge history
of India, II-1 (Cambridge:
CUP, 1988).

五月三日(土)「インフルエンザ蔓延のつ
まみ」

六月二七日(土)「浅香末起がみた「南方園
について」

籠谷 直人

参考文献:

『爪哇經濟界ノ現況ト蘭領東印
度ノ原始産業並ニ其ノ取引概
観』(南支南洋研究第九號) 台

北高等商業學校、一九三〇年九月。

『南洋經濟研究』千倉書房一九四二年二月（初版は四一年六月）。

『南方交易論』千倉書房、一九四三年一月。

『ジャワ人口問題とその対策』

『大日本拓殖學會年報』第一輯（大東亞政策の諸問題）、日本評論社、一九四三年六月。

『大南方經濟論』太平洋書館、一九四四年一〇月。

八月五日（水） Utrecht, The Netherlands, World Economic History Congress 二〇〇九にて成果報告

九月二六日（日） 社會經濟史學にて成果報告「一九世紀のアジア・ネットワーク―金融網と通商網をとおして」 司會：濱下 武志（龍谷大學）

「東アジアにおける自由貿易原則の浸透」 籠谷 直人
「イギリス帝國下のイースタンバンク問題・英領インドから海峽植民地へ」 一八五三―一八七一年 川村 朋貴

「香港における銀本位制の成立

と銀行券の役割について」

西村 雄志
「朝鮮開港期における華商の活動と廣域ネットワーク」 石川 亮太

一〇月二四日（土）「大塚久雄『株式會社發生史論』をめぐって」 坂本優一郎

参考文献：

『大塚久雄著作集』岩波書店。
Kenneth Pomernanz, 'The Great Divergence, Europe, China and the Making of the Modern World Economy', Princeton University Press, 2000.

二月一九日（土）「グローバル・ヒストリーのなかの大川周明論」 協村 孝平

参考文献：

亞細亞建設者／大川周明著、一第一書房、一九四一
印度に於ける國民的運動の現状及び其の由來／大川周明「著」、大川周明、一九一六。
回教概論／大川周明著、一岩崎書店、一九五四

特許植民會社制度研究／大川周明著、一寶文館、一九二七。

二：

日本二千六百年史／大川周明著、一第一書房、一九三九。

復興亞細亞の諸問題／大川周明著、一大鏡閣、一九二二、七。

王權と儀禮

本共同研究は、王權と儀禮との關係を古代インドの王權儀禮を中心に研究することを目的としている。ヴェーダ文獻を基礎資料にしているが、インド學の諸分野のほか、言語學、歴史學、考古學、美術史、人類學などの複数の視點から資料を分析するとともに、さまざまな時代と地域における王權と儀禮に関わる問題を比較研究の對象としている。

隔週に開いている研究會では、會讀と報告をほぼ交互に行なっている。會讀では、ヴェーダ祭式文獻の中から王即位式（ラージャサヤ）に関するすべての箇所を讀解し、この儀禮に関する資料の集成をめざしている。報告では、王權と儀禮に關係してさまざまな分野の異なる視點から報告をおこなっている。五年目の今年度は、會讀については當初豫定より擴大した範圍のものも含めて關連資料の約九割の檢討を終え、報告についてはインド現地調査研究の分野から報告を受けた。今年度より、研究の完了と成果の出版にむけて、最終的なとりまとめ作業を開始した。會讀に關しては、全資料の再檢討を行ないながら、會讀文獻のうち未譯のもの二種について王即位式に關する部分の英譯を始めた。詳細な解説および索

引を付した英文研究書として出版する豫定である。また、報告については、研究視野の擴大を續けるとともに、これまでの報告を深化・發展させ、さまざまな地域と時代の王權と儀禮をめぐる論文集にまとめる豫定である。

研究會記録

- 一月二三日 (會讀一〇) Vadhula-Srautas-utra 一〇' 一' 一―一三 池田 宣幸
 - 五月二五日 (會讀二) これまでの總括 藤井 正人
(再讀一) Vadhula-Srautas-utra 一〇' 一' 一―一七 梶原三恵子
 - 六月二二日 (報告二) ケーララ州におけるヴァードゥーラ學派の現況 ―「大師匠家のひとつ「ネドゥムペリ家」を中心に― 梶原三恵子・手嶋 英貴
 - 一〇月 二日 (會讀二) Vadhula-Srautas-utra 一〇' 一' 一―四―二六 小林 正人
 - 一二月二五日 (會讀三) Vadhula-Srautas-utra 一〇' 一' 一―二七―三八 藤井 正人
(再讀一) Vadhula-Srautas-utra 一〇' 一' 一―八―六〇 手嶋 英貴
- 研究準備會 一一月一三日、一

二月一日 色道書の言語をめぐる文史的的研究

班長 横山 俊夫

安定社會が閉塞せず、文にして明なる状態に赴くかどうかは、その社會を構成する諸要素が適切に交わり續けるために必要な豊かな媒介が存在するかどうかにかかっている。とりわけ、言語による媒介機能の質が問われる。この研究では、一七世紀末からの安定期日本の上方に榮えた非武装閉鎖空間である遊里を、文明化の要素をはらんだ安定社會のいわば小規模實驗例と見立て、そこでの虚實柔剛明暗の言語のありようを観察し、その媒介機能の人類史的價值について考える。

資料として、西水庵無底居士の『難波鉦』を選び、そこに記された言語生態の諸相をとらえ、文明化研究の観点から分類を試みる。そのことにより、當班の舊組織が試みた同書の一部校訂や現代上方語譯を修訂するとともに、未校未譯部分を加え、當班独自の意味づけを持たせた一篇をまとめた。そのためには、同時代の他の「遊女評判記」や「色道諸分」類との比較とともに、各班員が屬している多様な現代學術分野における、それぞれに特殊な言語習慣との對比が有効であろう。

班員

- 岩城卓二、菊地 暁、古勝隆一、武田時昌、田中祐理子(以上、所内) 木村大治、鹽瀬隆之、田邊明生、松田文彦、山極壽一(以上、學内) 上村多恵子(日本エッセイストクラブ)、遠藤 彰(立命館大)、後藤静夫(京都市立藝術大)、齋藤清明

(総合地球環境研)、廣瀬千紗子(同志社女子大)、深澤一幸(大阪大)

- 五月三日 「研究班の運営について」 横山 俊夫
「吉原徒然草」を讀む」 廣瀬 隆之
見學會 下京 栗嶋堂宗徳寺
- 六月二七日 「都風俗鑑」案内 廣瀬 隆之
「難波鉦」梅之部(埋火) かはら 補遺」 横山 俊夫
- 七月 一日 「自然學」という言葉―今西錦司の選擇― 齋藤 清明
- 七月二九日 「難波鉦」(枕箱 きん太夫) 新釋」 後藤 静夫
「括弧の意味論」 木村 大治
- 八月一八日 見學會 和文華の會主催「文樂義太夫節はおもしろい」 齋藤 清明
(演者 豊竹嶋大夫氏、豊澤富助氏) 後藤 静夫
- 九月一九日 「難波鉦」(火廻 おこと) 輪讀」 田中 祐理子
「ことばの聖」二人―新村出と柳田國男― 菊地 暁
- 一〇月 一日 「言葉を共有するためのインクルーシブデザイン」 鹽瀬 隆之
「難波鉦」(一時雨 はつ雪) 輪讀」 遠藤 彰
- 一〇月一七日 「ゲノムの配列から眺めたヒト」という存在 松田 文彦
- 一一月 一日 「公事宿とは何者か―公私の狭間に生きた人々―」 岩城 卓二

二月二日 見學會 橋會館死内の鶏冠木

「章炳麟の日本漢學蔑視をめぐって」 古勝

二月十九日 『難波鉦』へ初髻 まん太夫」 廣瀬

「奥村三四郎『秘傳書』に見る媒介事象あれこれ」 横山

外から見た近代日本の記録 (二〇〇八、四) 二〇〇九、三)

近代日本と異文化接觸―「同時代化」を生きた人々の記録― (二〇〇九、四) 二〇一〇、三)

班長 ヴィイタ、シルヴィオ

前年から継続していた「外から見た近代日本の記録」を二〇〇九年三月で終え、引き続き「近代日本と異文化接觸―「同時代化」を生きた記録―」として再スタートした。後者は三年かがりで交流の場としての「近代」という時代を扱うことにして、日本から見た洋行という行爲も視野に入れた。人文學國際研究センターの活動の一環として考え、ゲスト・スピーカーを含めた参加者の個別發表の形を取った。研究會の成果は三年後、論文集にまとめる豫定である。

◆外から見た近代日本の記録

二月二七日

「一八六二年ロンドン萬國博覽會と日本―「日本研究」の相對化に向けて」

報告…佐野真由子

三月六日

「リチャード・ゴードン・スミスの日本発見」

報告…伊井 春樹

三月一三日

「一九世紀日伊交流の側面―ピエトロ・サヴィオによる第二回日本内陸部巡遊(一八七四)―」 報告…岩倉 翔子

◆近代日本と異文化接觸―「同時代化」を生きた人々の記録―

四月二七日

「二〇世紀前半期の神戸に生きた英國系定住外國人たち―資料と研究」 報告…田村 恵子

六月八日

「チャールズ・ロングフェローと関連資料の課題」 報告…シルヴィオ・ヴィイタ

「チャールズ・ロングフェローの日本旅行―Catherine M. E. Guth Longfellow's Tattoosと「信憑性」の問題」

報告…アンドリュウ・エリオット

「若きウゴ・ピサと米公使デ・ロングの北海道・東北視察旅行について」

報告…ジュリオ・ベルテッリ

一月三〇日

「フランス士官が見た近代日本建築 一八七六―一八七八―コレージュ・ド・フランス日本學高等研究所蔵、ルイ・クレットマン(Louis Keilmann)の寫真コレクションの紹介と分析」

報告…ニコラ・フィエヴェ

二月一四日

「現代の眼で見た桂離宮―日本建築の交錯する歴史」

報告…ブノア・ジャケ

人文研探検 班長 岩城 卓二・菊地 暁

本研究班は、人文研の歴史を基礎データに基づいて検証し、日本の人文社會科學のあり方を再検討する試みである。研究対象は、人文研の活動により産出されたさまざまな知的プロダクトであるが、大別して(一)著作物、(二)人的資源、(三)資料群、(四)方法的蓄積、がある。これらを相互に連關させつつ、時代状況との相關において把握することが本研究班の課題となる。

本年は昨年度に引き続き、基礎データのリストアップ作業を遂行した。このほか、創立八〇周年記念事業として開催された、人文研アカデミー・連續セミナー「人文研八〇年―人文學の過去・現在・未來」(二〇〇八、二九)、創立八〇周年記念シンポジウム「共同研究の可能性―人文研八〇年の回顧と展望」(一一/五)の企画・運営、記念誌『京都大學人文科學研究所創立八〇周年』(所報人文特別號)の編集、京大總合博物館にて開催された「學術映像博 二〇〇九」展(八/五、一一/一三)の「映像と寫真でみる東洋學」セッション展示構成、同博物館で開催されたトクイメント「戦前・戦中の中國史蹟フィルム―京大人文研所蔵フィルムを見る―」(一〇/三一)の企画・運営などに協力した。

本研究班は今年度をもって終了し、資料調査の成果を中心とした報告書を作成する豫定である。

二月一六日 文書整理

三月一六日 文書整理

五月一日 文書整理

- 六月一五日 文書整理
- 七月 六日 文書整理
- 八月 五日 寫真資料整理
- 一〇月 五日 文書整理
- 十一月 九日 「聞き書き 荒井健氏」
- 十一月二七日 京大文書館資料調査
- 十二月 七日 新村出記念財團資料調査
- 十二月二一日 音聲資料整理
- 啓蒙の運命―系譜學の試み(二〇〇五、四)〜二〇〇九(三) 班長 富永 茂樹
- 本共同研究は、二〇〇九年三月、以下の四報告をもって終了した。その後、各班員から提出された論文をまとめて、研究報告書を公刊すべく鋭意準備の途次にある。
- 一月一六日 「啓蒙論再考―一七八〇年前後のドイツの啓蒙論を中心に」吉田耕太郎
- 二月 六日 「エドモンド・バークの啓蒙…『崇高と美の觀念の起源』(一七五七) 再讀」 小田川大典
- 二月二〇日 「反啓蒙小説としてのフロアベール『ヴァールとペキューシェ』」 松澤 和宏
- 三月 六日 「恐怖政治と最高存在の祭典―政治的なもの宗教・藝術の問題」 上田 和彦

個人研究

人文學研究部

- 前近代日本の文明史的研究 横山 俊夫
- 近代東アジアにおける日本の法と政治 山室 信一
- フランス革命と近代的主體の成立 富永 茂樹
- 近代朝鮮の政治と社會 水野 直樹
- 在日米軍を中心とする軍事共同體の人類學的研究 田中 雅一
- 文學理論の研究 大浦 康介
- ヴェーダ文獻の生成と傳承の研究 藤井 正人
- 人種・エスニシティ論 竹澤 泰子
- 戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク 籠谷 直人
- 近代天皇制の文化史的研究 高木 博志
- 近代日本の藝術と西洋 高階繪里加
- 現代社會における生物學・生命科学 加藤 和人
- 音樂におけるロマン派とメロドラマの音樂 岡田 曉生
- 一九世紀末イギリスのポピュラー・コンサヴァティズム 小關 隆
- 近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想 王寺 賢太
- 幕末期の畿内・近國社會 岩城 卓二
- 精神分析的知を思想的に位置づける試み 立木 康介

- ザガフカスの「義賊」と戦争 伊藤 順二
- 近代日本民俗誌システムの研究 菊地 暁
- 近代西洋醫學發展史研究および身體論 田中祐理子

東方學研究部

- 近代朝鮮在住日本人社會の研究 李 昇燁
- 近代詩の虚構性 久保 昭博
- 再構築されるオリシヤ崇拜―異なる「人種・宗教」をとりこむアフリカ系アメリカ人の社會運動― 小池 郁子
- 戦前期日本の大衆社會・文化 黒岩 康博
- 古代インド家庭儀禮の研究 梶原三恵子
- フィリピンにおける差異と共同性の構築 日下 涉
- 中國の小説、演劇及び説唱文學の歴史 金 文京
- 中國建築の様式・技法・空間 田中 淡
- 近代中國の綿紡織業 森 時彦
- 道教思想研究 麥谷 邦夫
- 敦煌寫本の言語史的研究 高田 時雄
- 中國古代中世の法制 富谷 至
- 清代の文化と社會 井波 陵一
- 中國科學の思想史的考察 武田 時昌
- 近代中國の財政と社會 岩井 茂樹
- 先秦時代の金文 淺原 達郎
- 古代中國の考古學研究 岡村 秀典
- イスラーム東漸史の研究 稻葉 穰
- 川西走廊の漢藏諸語の記述言語學的研究 稻葉 穰

インド・中國における佛教の學術と實踐 池田 巧

文字コード理論 船山 徹

佛教研究知識ベース―禪佛教を例として 安岡 孝一

ウイッテルン、クリスティアン 石川 禎浩

中國共產黨史の研究 宮宅 潔

秦漢時代の制度史 矢木 毅

高麗官僚制度研究 古勝 隆一

中國注釋學史研究 古松 崇志

中國近世の國家支配の研究 守岡 知彦

文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究 藤井 律之

中國古代中世の官制史 宮 紀子

モンゴル時代の文化政策と出版活動 山崎 岳

明代後期北虜南倭時代の中國社會 高井たかね

中國家具とその使用に関する研究 永田 知之

中國唐宋の文學批評 向井 佑介

近代中國におけるナショナリズムと政治シンボル 小野寺史郎

事業概況

・第五回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

二〇〇九年三月七日 於 學術総合センター(千代田區一ツ橋)

漢字文化と西洋近代思想の出会い―梁啓超を中心に

民族主義と梁啓超 小野寺史郎

「眠れる獅子」のイメージと梁啓超 石川 禎浩

西洋近代經濟學と梁啓超 森 時彦

・退職記念講演會

二〇〇九年三月一九日 於 本館大會議室

中國圖像學と皇帝の意志表象 曾布川 寛

・文化講座(人文研アカデミー/NHK大阪文化センター)

二〇〇九年四月、五月、六月、七月、八月、九月

於 NHK大阪文化センター

歴史のなかの三都物語―近世―近代の奈良・京都・大阪

四月二六日 鹿とともに生きる―奈良―

天理大學おやさと研究所研究員 幡鎌 一弘

五月二二日 吉野山を訪れたひとびと―ある旅館の宿帳から― 黒岩 康博

六月一八日 明治維新と京都の天皇 高木 博志

七月二六日 明治維新を擔った京都人 京都市歴史資料館主任

八月二〇日 武士がみた大坂 岩城 卓二

九月一七日 商都・工都・軍都の大坂 佛敎大學文學部人文學科教授

・Spectacle(人文研アカデミー/關西日佛學館) 原田 敬一

二〇〇九年五月二〇日

於 關西日佛學館稻畑ホール

ラブレ―獨り芝居―借金禮讚― 役者・演出家 デイディエ・ガラス

・特別對談(人文研アカデミー) 解説 大浦 康介

二〇〇九年六月二日 於 本館大會議室

二一世紀の音樂批評を考える 岡田 曉生

・夏期公開講座(人文研アカデミー) 片山 杜秀

二〇〇九年七月四日 於 本館共通一講義室

名作再讀―いま讀んだらこんな面白い(四) 貧民窟の食生活 松原岩五郎『最暗黒の東京』

東京大學大學院農學生命科學研究科講師 藤原 辰史

巡禮と都市 ナーセレ・ホスロー『旅行記』を讀む 稲葉 穰

都市を徘徊する エドガー・A・ポー『群衆の人』の世界 富永 茂樹

・アスニー・ゴールデンエイジアアカデミー(人文研アカデミー/京都市生涯學習總合センター) 於 京都アスニー

二〇〇九年九月 鎖國前後の日本 於 京都アスニー

九月 四日 倭寇とクリスタン―アジアから 日本へ― 山崎 岳

九月二一日 唐人町と媽祖―草の根の海域交流を追う― 天理大學國際文化學部教授 藤田 明良

九月一八日 和様化するやきもの

茶道資料館學藝員 降矢 哲男

九月二五日 南蠻科學を學んだ人々

武田 時昌

・連續セミナー(人文研アカデミー)

二〇〇九年一〇月 於 本館共通一講義室

人文研八〇年 人文學の過去・現在・未來

一〇月 八日 助手研究班があった頃のこと、そして今……

印刷博物館館長 樺山 紘一

一〇月一五日 人文研・東分部と私

京都大學人文科學研究所

名譽所員 小野 和子

一〇月二二日 京都大學人文科學研究所と人類

學 坂の上の雲ミュージアム館長

松原 正毅

一〇月二九日 一九七〇年代の人文研における

日本文化研究について

林原美術館館長 熊倉 功夫

・創立八〇周年記念シンポジウム(人文研アカデ

ミー)

二〇〇九年一二月五日

於 芝蘭會館稻森ホール

共同研究の可能性―人文研八〇年の回顧と展望

社會學者 加藤 秀俊

大谷大學博物館館長 礪波 護

京都大學名譽教授 松尾 尊兌

司會 金 文京

岡田 曉生

・Lecture(人文研アカデミー)

二〇〇九年一月、二月

於 本館セミナー室一

ラカンを読む

一二月二日、一九日、二六日、二三月三日、一〇日、一七日

・漢字情報研究センター講習會

・二〇〇九年度漢籍擔當職員講習會(初級)

第一日(一〇月五日)

オリエンテーション

岩井 茂樹

漢籍について

井波 陵一

カードの取り方―漢籍整理の實踐

梶浦 晉

第二日(一〇月六日)

工具書について

永田 知之

漢字目録カード作成實習

第三日(一〇月七日)

目録檢索とデータベースの檢索

安岡 孝一

漢籍データ入力實習(一)

和刻本について

文學研究科准教授 宇佐美文理

漢籍データ入力實習(二)

第五日(一〇月九日)

朝鮮本について

矢木 毅

實習解説

山崎 岳

書庫見學・質疑應答

井波 陵一

・二〇〇九年度漢籍擔當職員講習會(中級)

第一日(十一月六日)

オリエンテーション

岩井 茂樹

經部について

文學研究科教授

池田 秀三

叢書部について

高井たかね

叢書と漢籍データベース

安岡 孝一

第二日(十一月七日)

史部について

藤井 律之

漢籍データ入力實習(一)

第三日(十一月八日)

子部について

武田 時昌

漢籍データ入力實習(二)

第四日(十一月九日)

集部について

道坂 明廣

人間・環境學研究科准教授

漢籍データ入力實習(三)

第五日(十一月二〇日)

漢籍目録と文獻類目

井波 陵一

實習解説

山崎 岳

情報交換

井波 陵一

所員動靜

。曾布川寛教授(東方學研究部)は、定年により退職(三月三日付)。

。坂本優一郎助教(人文學研究部)は、辭任の上(三月三日付)、大阪經濟大學專任教育職員(講師)に就任。

。倉島哲助教(人文學研究部)は、辭任の上(三

（月三二日付）、關西學院大學社會學部専任講師に就任。

。田邊明生准教授（人文學研究部）は、大學院アジア・アフリカ地域研究科教授就任（四月一日付）。

。水野直樹教授（人文學研究部）を當研究所長に併任（四月一日～二〇一一年三月三十一日）。

。岩井茂樹教授（東方學研究部）を附屬東アジア人文情報學研究センター長に併任する（四月一日～二〇一一年三月三十一日）。

。森時彦教授（東方學研究部）を附屬現代中國研究センター長に併任（四月一六日～二〇一一年三月三十一日）。

。稻葉稯准教授（東方學研究部）は當研究所（東方學研究部）教授に昇任（四月一日付）。

。井波陵一教授（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。武田時昌教授（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。ウィッテルン、クリスティアン准教授（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。安岡孝一准教授（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。永田知之助教（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配

置換（四月一日）。

。向井佑介助教（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。守岡知彦助教（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。山崎岳助教（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。梶浦智助手（附屬漢字情報研究センター）は、附屬東アジア人文情報學研究センターに配置換（四月一日）。

。安藤房枝を助教（東方學研究部）に採用（四月一日）。

。白井哲哉を特定研究員（科學研究）に採用（四月一日）。

。VITA, Silvio イタリア國立東方學研究所所長は、客員教授（文化研究創成研究部門、四月一日～二〇一〇年三月三十一日）。

。JACQUET, Benoit Marcel Maurice フランス國立極東學院京都支部長は、客員准教授（文化研究創成研究部門、四月一日～二〇一〇年三月三十一日）。

。袁廣泉 大學共同利用機關法人人間文化研究機構地域研究推進センター研究員は、客員准教授（附屬現代中國研究センター、四月一日～二〇一〇年三月三十一日）。

。藤原辰史（人文學研究部）助教は、辭任の上

（五月三十一日付）、東京大學大學院農學生命科學研究科講師就任。

。MAHARJAN, Keshav Lal 廣島大學大學院國際協力研究科教授は、特任教授（一〇月一日～二〇一〇年三月三十一日）。

。梶原三恵子を助教（人文學研究部）に採用（一〇月一日）。

。日下渉を助教（人文學研究部）に採用（一〇月一六日）。

。加藤和人准教授（人文學研究部）は、受託研究費により、一月五日大阪發、The California Institute for Regenerative Medicine 及 Harvard Stem Cell Institute に於いてアメリカにおける新 iPS 細胞活用の調査研究に關する社會倫理、ガイドラインの情報交換及び調査を行い、一月一日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一月二三日大阪發、重慶市圖書館及び上海圖書館に於いて複數文化接觸に關する文獻調査を行い、一月一八日歸國。

。山崎岳助教（附屬漢字情報研究センター）は、文部科學省科學研究費補助金により、一月六日大阪發、石浦港等に於いて南中國の漁業および漁民社會に關する調査、寧波大學に於いて日中海域交流に關する國際シンポジウムに参加、船山圖書館に於いて南中國の漁業と漁民文化に關する資料収集等を行い、一月二〇日歸國。

。倉島哲助教（人文學研究部）は、日本學術振興

- 會經費により、二〇〇七年一月三日大阪發、マンチェスター大學に於いて客員研究員として調査研究を行い、二〇〇七年一〇月二三日一時歸國し、一〇月二五日出國。二〇〇七年十一月一四日再度一時歸國し、十二月二一日再出國。二〇〇八年七月二五日再々度一時歸國、二〇〇八年八月二二日出國、マンチェスター大學に於いて客員研究員として調査研究及び太極拳センターにて現地調査を行い、二〇〇九年一月二三日歸國。
- 。田中雅一教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一月七日大阪發、コロンボ大學に於いて宗教マイノリティについての調査を行い、一月二四日歸國。
- 。小池郁子助教（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一月二九日大阪發、ペッカム區域ナイジェリア人共同體に於いて宗教的活動、民族團體に關する資料文獻収集及び實地調査を行い、二月一三日歸國。
- 。山室信一教授（人文學研究部）は、二月一〇日大阪發、仁荷大學韓國研究所に於いて連續講義・質疑及び資料調査を行い、二月一六日歸國。
- 。藤井正人教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月一〇日大阪發、イリンジャラクタ村及びバンニヤール村に於いてヴェータ傳承及び寫本の調査を行い、二月二一日歸國。
- 。矢木毅（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二〇日大阪發、國立中央圖書館に於いて近世朝鮮時代の政治文化に關する資料収集を行い、二月三日歸國。
- 。ウィッテルン、クリスティアン准教授（附屬漢字情報研究センター）は、二月二二日大阪發、中央研究所に於いてTEIDAP二〇〇九國際會議に出席、研究報告を行い、二月二八日歸國。
- 。岡村秀典教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二三日大阪發、國立博物館に於いて佛教關連文物の調査、サーンチー寺院に於いてストウラーの調査、マトウラー博物館に於いてマトウラー出土文物の調査、インド博物館に於いて佛教關連文物の調査を行い、三月九日歸國。
- 。向井佑介助教（附屬漢字情報研究センター）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二三日大阪發、國立博物館に於いて佛教關連文物の調査、サーンチー寺院に於いてストウラーの調査、マトウラー博物館に於いてマトウラー出土文物の調査、インド博物館に於いて佛教關連文物の調査を行い、三月九日歸國。
- 。李昇煒助教（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月一日大阪發、中央研究院・台灣史研究所に於いて日本の台灣統治と人種論に關する文獻調査を行い、三月一〇日歸國。
- 。田中雅一教授（人文學研究部）は、受託研究費により、二月二八日大阪發、マドラス大學に於いて被災地の環境問題についてのデータ収集を行い、三月二二日歸國。
- 。立木康介准教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月九日大阪發、École Normale Supérieureに於いて「ひと概念の再構築をめざして」人文科學・アート・醫療をつなぐ問いかけ」プロジェクトのための資料・文獻収集を行い、三月一九日歸國。
- 。高田時雄教授（東方學研究部）は、三月一九日大阪發、高麗大藏經研究所に於いて學術會議に出席、論文を宣讀し、三月二二日歸國。
- 。田邊明生准教授（人文學研究部）は、三月一三日大阪發、Martin Chautariに於いてネパールフィールドスクール・オリエンテーション及び講義、CDO (NGO) 及び周邊地域に於いてネパールフィールドスクール・フィールド演習を行い、三月二三日歸國。
- 。藤井正人教授（人文學研究部）は、受託研究費により、三月一九日大阪發、トリチュール近郊に於いてヴェータ傳承地におけるインド傳承醫學の調査を行い、三月二六日歸國。
- 。王寺賢太准教授（人文學研究部）は、三月一四日大阪發、國際哲學コレージュに於いて人文科學研究所と國際哲學コレージュとの協定に基づき、研究者交流、講演等の実施を行い、三月三〇日歸國。
- 。高田時雄教授（東方學研究部）は、三月二五日大阪發、Institute of Oriental Manuscripts, Russian Academy of Sciencesに於いてロシア中央アジア探検隊に關する共同研究の打ち

- 合わせを行い、四月一日歸國。
- 。富永茂樹教授（人文學研究部）は、四月八日大阪發、國立極東學院、高等研究院に於いて研究セミナーに出席、國立圖書館に於いて資料収集を行い、四月一八日歸國。
- 。ウィッテルン、クリスティアン准教授（附屬東アジア人事情報學研究センター）は、四月二二日大阪發、漢達文庫に於いて資料収集及び研究打ち合わせ、中華電子佛典協會に於いて資料収集及び研究打ち合わせを行い、四月一八日歸國。
- 。金文京教授（東方學研究部）は、四月二六日大阪發、成功大學に於いて講演、資料収集を行い、四月三〇日歸國。
- 。ウィッテルン、クリスティアン准教授（附屬東アジア人事情報學研究センター）は、五月三日大阪發、Mahachulalongkrajavidyalaya University に於いて佛典資料の國際ネットワークに關するワークショップに出席し、五月八日歸國。
- 。船山徹准教授（東方學研究部）は、一月二〇日大阪發、ハーヴァード大學に於いて客員教授として授業擔當及び資料収集を行い、六月一日歸國。
- 。石川禎浩准教授（附屬現代中國研究センター）は、六月一日大阪發、成均館大學に於いて學術講演並びに研究打ち合わせを行い、六月四日歸國。
- 。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金（一部先方負擔）により、五月三一日大阪發、Eötvös Loránd Univ. に於いて學術會議に出席、論文を宣讀、Oriental Institute of the Czech Academy of Sciences に於いて中央アジア出土文獻に關する資料収集を行い、六月七日歸國。
- 。ウィッテルン、クリスティアン准教授（附屬東アジア人事情報學研究センター）は、六月五日大阪發、His-Lai Temple に於いて Council on the translation of Buddhist Sutras に出席し、六月一〇日歸國。
- 。宮紀子助教（東方學研究部）は、五月一日大阪發、北京大學歴史系、北京大學圖書館、中國國家圖書館等に於いて學術交流、講義、資料調査を行い、六月三日歸國。
- 。富谷至教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、六月一日發、廈門大學に於いて國際シンポジウム「東アジアにおける禮と正義」の打ち合わせ及び「東アジアの死刑」中國語版出版に關する打ち合わせを行い、六月一七日歸國。
- 。岩井茂樹教授（東方學研究部）は、六月一七日大阪發、復旦大學に於いて國際會議に出席、浙江省平湖市に於いて乍浦鎮における現地調査を行い、六月二一日歸國。
- 。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、六月一六日大阪發、Institute of Oriental Studies, Kazakhstan に於いて學術會議に出席、論文を宣讀、Inst. of Archaeology, Kyrgyzstan に於いて中央アジア出土文獻に關する資料収集を行い、六月二四日歸國。
- 。加藤和人准教授（人文學研究部）は、受託研究費（一部先方負擔）により、六月一四日成田發、ハーバード大學に於いて「先端幹細胞研究における倫理と政策」會議に参加し情報交換および調査を行い、TANE+1LLC に於いて幹細胞研究を中心とした米國における科學情報の発信に關する聞き取り調査を行う、Welcome Trust Conference Centre に於いて「國際がんゲノムコンソーシアム（ICGC）第二回ワークショップ」に参加し、情報交換及び提言を行い、Human Genetics Commission に於いて意見交換と情報収集を行い、六月二六日歸國。
- 。金文京教授（東方學研究部）は、六月二一日大阪發、成均館大學に於いて連續講義及び資料収集を行い、六月二六日歸國。
- 。池田巧准教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、六月三日大阪發、中央民族大學、西南民族大學、中國藏學研究中心に於いてギャロン語方に關する資料収集と調査打ち合わせを行い、六月二八日歸國。
- 。加藤和人准教授（人文學研究部）は、受託研究費（一部先方負擔）により、七月六日成田發、Hotel Diagonal Zero に於いて國際ワークショップ「IPS cells: mapping the Policy issues」に出席し、ハンニスターとして發表、Barcelona International Convention Center

に於いてThe ISSCRに出席し、研究発表を行い、七月一二日歸國。

。金文京教授（東方學研究部）は、文部科省省科学研究費補助金により、七月二七日大阪發、四
川大學に於いて中國俗文學國際學術檢討會參
加及び論文発表を行い、七月三二日歸國。

。石川禎浩准教授（附屬現代中國研究センター）
は、七月二〇日大阪發、厦門大學、湖南省圖書
館、湖南省檔案館、國家圖書館に於いて中國近
現代史資料調査を行い、八月一日歸國。

。古松崇志助教（東方學研究部）は、七月二四日
大阪發、旅順博物館に於いて收藏品の調査、巴
林右旗博物館、慶州古城遺跡、懷州城、赤峰市
博物館等に於いて中國內蒙古自治區赤峰地區
の契丹時代の考古遺跡と現状のフィールド調
査を行い、八月一日歸國。

。向井佑介助教（附屬東アジア人情報學研究セ
ンター）は、七月二四日大阪發、旅順博物館に
於いて收藏品の調査、巴林右旗博物館、慶州古
城遺跡、懷州城、赤峰市博物館等に於いて中國
內蒙古自治區赤峰地區の契丹時代の考古遺跡
と現状のフィールド調査を行い、八月一日歸
國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科省省
科学研究費補助金により、八月三日大阪發、國
立成功大學に於いてロシア所藏敦煌文獻に關
する研究打合せを行い、八月六日歸國。

。高木博志准教授（人文學研究部）は、文部科省
省科学研究費補助金（一部先方負擔）により、

八月六日大阪發、北京師範大學珠海分校國際學
術交流中心に於いて民間文化フォーラムに出
席及び研究報告を行い、開平市内に於いて歴史
遺産の調査を行い、八月九日歸國。

。籠谷直人教授（人文學研究部）は、文部科省省
科学研究費補助金により、八月二日大阪發、ユ
トレヒト大學に於いて國際經濟史學會に出席
し研究発表を行い、イギリス公文書館に於いて
舊RPO資料に關する現地調査及び資料調査
を行い、八月二五日歸國。

。古勝隆一准教授（東方學研究部）は、二〇〇八
年八月三〇日大阪發、ハーバード大學燕京研究
所に於いて中國思想史研究を行い、二〇〇九年
八月一五日歸國。

。金文京教授（東方學研究部）は、文部科省省科
學研究費補助金（一部先方負擔）により、八月
一二日大阪發、友石大學において日韓人文社會
學會參加、論文発表、資料収集及び研究打合
せ、首都師範大學に於いて中國古典小説戯曲文
獻及デジタル國際檢討會參加及び論文発表、成均
館大學に於いて中國小説に關する資料収集を
行い、八月三二日歸國。

。菊地曉助教（人文學研究部）は、八月一九日大
阪發、東國大學に於いて「文化財保護制度にお
ける世界遺産條約の戰略的受容と運用に關す
る日韓比較研究」研究會に出席し、外岩民族マ
ウル及び水原市華城に於いて「文化財保護制度
における世界遺産條約の戰略的受容と運用に
關する日韓比較研究」現地調査を行い、八月二

三日歸國。

。池田巧准教授（東方學研究部）は、文部科省省
科学研究費補助金により、八月四日大阪發、中
央民族大學、西南民族大學及び中國藏學研究中
心に於いてギャロン語方言に關する資料収集
と調査打合せを行い、八月二四日歸國。

。山崎岳助教（附屬東アジア人情報學研究セン
ター）は、八月三三日大阪發、四川省檔案館、
上海圖書館に於いて東アジア史上における中
國訴訟社會の研究のための資料収集を行い、八
月三〇日歸國。

。森時彦教授（東方學研究部）は、共同研究費に
より、八月二一日大阪發、社會科學院近代史研
究所に於いて學術講演、研究打ち合わせ及び資
料収集、貴陽大學において國際シンポジウム出
席及び基調講演、上海市檔案館に於いて資料收
集を行い、九月三日歸國。

。石川禎浩准教授（東方學研究部）は、八月二五
日大阪發、カリーエ博物館、イスタンブール大
學、アクロポリス博物館、アテネ国立考古博物
館に於いて港灣都市文化の調査、研究打合せを
行い、九月五日歸國。

。田中雅一教授（人文學研究部）は、受託研究費
により、八月三二日大阪發、ソウル郊外に於い
てソウル郊外での環境問題の調査と關係團體
との交流を行い、九月五日歸國。

。小池郁子助教（人文學研究部）は、受託研究費
により、八月三二日大阪發、ソウル郊外に於い
てソウル郊外での環境問題の調査と關係團體

との交流を行い、九月五日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究所）は、文部科省省
科費補助金（一部先方負擔）により、九
月二日大阪發、ロシア科アカデミー東洋寫本
研究所において「敦煌學―更なる百年」國際學
術會議に出席及び資料収集を行い、九月九日歸
國。

。永田知之助教（附屬東アジア人文情報學研究セ
ンター）は、文部科省科費補助金（一
部先方負擔）により、九月二日大阪發、ロシア
科アカデミー東洋寫本研究所において「敦煌
學―更なる百年」國際學術會議に出席及び資料
収集を行い、九月九日歸國。

。岩井茂樹教授（東方學研究所）は、文部科省省
科費補助金（一部先方負擔）により、九
月七日大阪發、中國國家圖書館に於いて Inter-
national Conference Chinese Studies に参加
し、九月一日歸國。

。小關隆准教授（人文學研究所）は、文部科省省
科費補助金により、九月一日大阪發、エ
ディンバラ市内及びロンドン市内に於いて第
一次世界大戦期のイギリスに關する史料の調
査・収集を行い、九月一三日歸國。

。立木康介教授（人文學研究所）は、文部科省
省科費補助金により、九月三日大阪發、
Ecole Normale Supérieure に於いて「精神分
析運動の歴史的展開と今日的意義を啓蒙思想
の座標軸上で捉え直す試み」のための資料、文
獻収集を行い、九月一八日歸國。

。岡村秀典教授（東方學研究所）は、文部科省省
科費補助金により、九月九日大阪發、思
燕寺遺址に於いて北魏寺院址出土文物の調査、
中國社會科學院考古研究所に於いて調査の打
合せ、河北省文物研究所に於いて北魏定州塔址
出土文物の調査を行い、九月一九日歸國。

。向井佑介助教（東方學研究所）は、文部科省省
科費補助金により、九月九日大阪發、思
燕寺遺址に於いて北魏寺院址出土文物の調査、
中國社會科學院考古研究所に於いて調査の打
合せ、河北省文物研究所に於いて北魏定州塔址
出土文物の調査を行い、九月一九日歸國。

。加藤和人准教授（人文學研究所）は、文部科省
省科費補助金（一部先方負擔）により、
九月一日大阪發、Rimrock Resort Hotel に
於いて「5th International DNA Sampling
Conference」に出席、研究発表を行い、九月二
日歸國。

。富谷至教授（東方學研究所）は、文部科省省科
費補助金により、九月一八日大阪發、ハ
ンブルグ大學に於いてシンポジウム「二世紀
の儒教」に参加、発表、ミュンスター大學に於
いて「儀禮と刑罰」に關する研究打合せ、ライ
デン大學に於いて「東アジアの死刑」英語出版
の打合せを行い、九月二九日歸國。

。山室信一教授（人文學研究所）は、九月二六日
大阪發、清華大學に於いて講演及び史料収集を
行い、九月三〇日歸國。

。古松崇志助教（東方學研究所）は、京都大學教

育研究振興財團助成金により、九月一日大阪
發、北京大學、中國國家圖書館に於いて文獻資
料調査・現地フィールド調査及び學術講演を
行い、九月三〇日歸國。

。金文京教授（東方學研究所）は、九月一日大阪
發、成均館大學東亞學術研究院に於いて連續講
演及び東アジア比較文學に關する共同研究參
加、中央研究院歷史語言研究所に於いて東亞文
化意象之形塑（國際學術討論會）参加、論文發
表、資料収集及び研究打合せを行い、一〇月一
日歸國。

。森時彦教授（東方學研究所）は、一〇月三日大
阪發、中央研究院に於いて國際シンポジウム出
席及び基調講演を行い、一〇月七日歸國。

。宮宅潔准教授（東方學研究所）は、二〇〇八年
一〇月一五日大阪發、ミュンスター大學に於い
て中國古代刑罰制度の研究を行い、二〇〇九年
一〇月一四日歸國。

。金文京教授（東方學研究所）は、一〇月二日大
阪發、成均館大學東亞學術研究院に於いて連
續講演及び東アジア比較文學に關する共同研
究に参加し、一〇月一六日歸國。

。稻葉稷教授（東方學研究所）は、九月二七日大
阪發、イスタンブール市内、考古學博物館及び
ボアジチ大學に於いて大谷探検隊關連遺物・
遺跡調査、カッパドキア遺跡に於いて洞窟壁畫
の調査、アナトリア日本學考古研究所に於いて
佛教西傳に關する研究打合せ、ガジ大學に於い
て佛教遺跡調査、アフラット遺跡、ヴァルビ

ジュ遺跡等に於いて遺跡調査を行い、一〇月二四日歸國。

。山室信一教授（人文學研究所）は、一〇月二五日大阪發、安重根ハルビン學會・東北アジア歴史財團に於いて國際學術シンポジウムでの講演と討議を行い、一〇月二八日歸國。

。金文京教授（東方學研究所）は、一〇月二五日大阪發、成均館大學東亞學術研究院に於いて連續講演及び東アジア比較文學に關する共同研究に參加し、一〇月三一日歸國。

。森時彦教授（東方學研究所）は、一〇月二五日大阪發、ハイデルベルグ大學に於いて講義、研究打ち合わせ及び資料収集を行い、十一月七日歸國。

。山室信一教授（人文學研究所）は、十一月三日大阪發、台灣大學及び高雄第一科技大學に於いて講演及び學術交流を行い、十一月八日歸國。

。籠谷直人教授（人文學研究所）は、十一月五日大阪發、北京市内に於いて華僑關係資料に關する調査、北京大學に於いて北京フォーラム出席及び研究發表を行い、十一月九日歸國。

。小池郁子助教（人文學研究所）は、一〇月八日大阪發、文部科學省科學研究費補助金により、オリシヤ崇拝運動據點及び個人崇拝組織に於いて宗教實踐、社會宗教運動に關する資料文獻

。森時彦教授（東方學研究所）は、十一月七日大阪發、北京大學に於いて北京フォーラムにて招待講演及び資料収集を行い、十一月一日歸

國。

。籠谷直人教授（人文學研究所）は、十一月九日大阪發、台灣市内に於いて華僑關係資料に關する調査、中央研究院に於いて華僑華人學會に出席及び研究發表を行い、十一月二三日歸國。

。山崎岳助教（附屬東アジア人文情報學研究センター）は、文部科學省科學研究費補助金（一部先方負擔）により、一〇月三〇日大阪發、トル・ド・ドンボ文書館に於いて清代檔案史料調査、シントラ、ロカ岬に於いてポルトガル海

洋史跡巡見、獨立宮殿に於いて國際ワークショップへの參加及び研究報告、アジュダ文書館に於いてイエズス會關係史料の閲覽等を行い、十一月一四日歸國。

。稻葉穰教授（東方學研究所）は、十一月二三日大阪發、ソウル國立大學に於いて研究打合せ、ソウル國立博物館に於いて國際學會“*Afghanistan on the Crossroads of Civilization*”に參加、研究發表を行い、十一月二五日歸國。

。ウィッテルン、クリスティアン准教授（附屬東アジア人文情報學研究センター）は、八月一七日大阪發、オスロ大學に於いて國際シンポジウム開催と出席、講義、研究打合せ及び資料蒐集を行い、十一月一八日歸國。

。富谷全教授（東方學研究所）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月五日大阪發、廈門大學法學院に於いてシンポジウム「儀禮と刑罰」を廈門大學と共同開催し、二月九日歸國。

。矢木毅准教授（東方學研究所）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月五日大阪發、廈門大學法學院に於いてシンポジウム「儀禮と刑罰」に參加及び研究發表を行い、二月九日歸國。

。古勝隆一准教授（東方學研究所）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月五日大阪發、廈門大學法學院に於いてシンポジウム「儀禮と刑罰」に參加及び研究發表を行い、二月九日歸國。

。竹澤泰子教授（人文學研究所）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二日成田發、マリオートホテルに於いてアメリカ人類學出席、ニューヨーク大學に於いて共同研究打合せ、ハーバード大學に於いて出版打合せを行い、二月二五日歸國。

。船山徹准教授（東方學研究所）は、十一月五日大阪發、ハイデルベルグ學術アカデミーに於いて石刻經典共同研究及び資料収集を行い、二月一八日歸國。

。池田巧准教授（東方學研究所）は、共同研究費により、二月一六日大阪發、中央研究院言語學研究所に於いて現代中國語のローマ字表記法についての資料収集を行い、二月二〇日歸國。

。池田巧准教授（東方學研究所）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二四日大阪發、中央民族大學に於いてギャロン語方言に關する資料収集及び調査打合せを行い、二月二

七日歸國。

。武田時昌教授（附屬東アジア人文情報學研究センター）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二一日大阪發、嶽麓所院、湖南省文物考古研究所、武漢大學簡帛研究中心、中國科學院自然科學史研究所に於いて秦漢簡牘資料調査及び研究ワーキングに参加し、二月二十八日歸國。

外國人研究員

。汪 朝光 中國社會科學院近代史研究所・研究員（民國史研究室・主任）
中國映畫における抗日戰爭の記憶
（文化連關研究客員部門）

期間 一月五日～七月四日
受入教員 森教授

。田村恵子 オーストラリア戰爭記念館豪日研究プロジェクトプロジェクトマネージャー
日豪の戰爭の記憶におけるナショナリズムとトランスナショナルリズム
（文化生成研究客員部門）

期間 二月二〇日～五月二七日
受入教員 田中雅一教授

。WIMMER, Andreas カリフォルニア大學ロサンゼルス校社會學教授
エスニシティと人種…理論的および實證的探究
（文化生成研究客員部門）

受入教員 竹澤教授

期間 五月二八日～八月二七日

。FITZGERALD, Timothy スターリング大學
言語・文化・宗教學部教授
現代日本の宗教と民俗世界
（文化連關研究客員部門）

期間 七月六日～二〇一〇年一月五日
受入教員 田中雅一教授

。劉 曉 中國社會科學院歷史研究所研究員
元代の社會と文化
（文化生成研究客員部門）

期間 八月三十一日～二〇一〇年三月一日
受入教員 金教授

招聘外國人學者

。ESPÓSITO, Monica
道藏輯要の研究
受入教員 麥谷教授

期間 二〇〇六年四月一日～二〇一〇年三月三十一日（繼續）
李 玠爽 國立慶北大學校教授
日本における元代法制史研究動向の調査
受入教員 金教授

期間 二月九日～二月三日
王 三慶 國立成功大學中國文學系教授
日本漢文小説研究
受入教員 高田教授

期間 三月一日～八月三十一日
金 世昊 韓南大學校師範大學歷史教育科教授
韓中日の無政府主義の思想の受容及び運動の相互影響
受入教員 石川准教授

。梁 會錫 國立全南大學校教授
日本における中國古典文學研究の現状調査
受入教員 金教授

期間 三月一七日～二〇一〇年二月二八日
。鞏 文 中國社會科學院考古研究所副研究員
三～六世紀の裝身具からみた東アジアの文化交流
受入教員 岡村教授

期間 四月七日～二〇一〇年二月一〇日
。PIÉVE, Nicolas Bernard フランス國立極東學院教授
千利休の茶室―その建築と時空間
受入教員 田中雅一教授

期間 八月一日～十一月五日
。SCHERRMANN, Sylke Ulrike
青島舊藏ドイツ語文獻中の法制關係資料の調査
受入教員 岩井教授

期間 四月一五日～二〇一〇年三月三十一日
。ANDREANI, Fabiana イタリア國立東方學研究所研究員
認知意味論から見た日本語とイタリア語の直

期間 一月一日～二〇一〇年九月三〇日
外國人共同研究者

。ANDREANI, Fabiana イタリア國立東方學研究所研究員
認知意味論から見た日本語とイタリア語の直

期間 四月一五日～二〇一〇年三月三十一日
。ANDREANI, Fabiana イタリア國立東方學研究所研究員
認知意味論から見た日本語とイタリア語の直

示移動動詞における比較研究

受入教員 田中雅一教授

期間 四月二四日～九月三〇日

。CAMPAGNOLA, Francesco イタリア国立

東方學研究所研究員

日本におけるイタリア近代哲學の受容

受入教員 田中雅一教授

期間 四月二四日～二〇一〇年三月三十一日

。馬 駿 フランス社會科學高等研究院 (EHESS) 博士課程

梁啓超の政治保守主義と清末中國政治の展開

受入教員 石川准教授

期間 六月一日～七月三十一日

。FORTE, Erika Angela ウィーン大學藝術史

研究所研究員

七一〇世紀中央アジアの美術史・考古學

受入教員 稻葉教授

期間 九月一日～九月二十五日

。MC DONALD, Kate Ph. D. Candidate, University of California, San Diego

戦前日本のツーリズムに関する研究

受入教員 水野教授

期間 一〇月一日～二〇一〇年六月三〇日

外国人研究生

。安 鍾洙

國際結婚夫婦の子共たちの身體觀

受入教員 田中雅一教授

期間 二〇〇八年一〇月一日～二〇一〇年三

月三十一日(繼續)

。ALPERT, Erika Renee

Language and the Marriage Market in Kyoto, Japan

受入教員 田中雅一教授

期間 四月一日～二〇一〇年三月三十一日

。葛 奇蹊

内藤湖南における文化ナショナリズムの形成

について

受入教員 山室教授

期間 四月一日～九月三〇日

。GREENE, Eric M.

唐代以前の禪觀實踐

受入教員 船山准教授

期間 四月一日～二〇一〇年九月三〇日

。WITS, Casper

中國禪佛敎の語録類

受入教員 船山准教授

期間 一〇月一日～二〇一〇年三月三十一日

。張 德偉

大藏經の普及と明代社會

受入教員 船山准教授

期間 一〇月一日～二〇一〇年九月三〇日

。何 嘉

環境の文化人類學について

受入教員 田中雅一教授

期間 一〇月一日～二〇一〇年九月三〇日

。李 愛蘭

植民時代に朝鮮人男性と結婚した日本人女性

の文化人類學的研究

受入教員 田中雅一教授

期間 一〇月一日～二〇一〇年三月三十一日

出版物

紀要

東方學報 八三册(紀要第一六一册)

二〇〇八年九月二十五日刊

東方學報 八四册(紀要第一六二册)

二〇〇九年三月三十一日刊

東方學報 八五册(紀要第一六三册)

二〇〇九年三月三十一日刊

ZINBUN number 四一

二〇〇九年三月刊

人文學報 第九八號 (紀要第一六三册)

二〇〇九年一月三〇日刊

研究報告その他

コンタクトゾーン 第二號

二〇〇八年三月二十五日刊

漢字と情報 第一七號

二〇〇八年一〇月三十一日刊

漢字と情報 第一八號

二〇〇九年三月一六日刊

「敦煌寫本研究年報」第三號 西陲發現中國中

世寫本研究班 高田時雄編

二〇〇九年三月三十一日刊

所報人文 第五六號

- 二〇〇九年六月三〇日刊
二〇世紀中國の社會システム 森時彦編
二〇〇九年六月三〇日刊
東方學資料叢刊 第一八冊
二〇〇九年九月三〇日刊
東洋學へのコンピュータ利用 第二〇回研究
セミナー(二〇〇九年三月二七日實施)
二〇〇九年三月二七日刊
所報人文 特別號
二〇〇九年一月五日刊